

ポスト・コロナの消費動向 カゴメ新社長・山口聰の「さらに安全志向」戦略

# 財界

ZAIKAI  
a Japanese business biweekly

「コロナ前には戻らない」  
「次世代金融」を模索する  
みずほFG・坂井辰史の  
危機感

夏季特大号  
2020 7/8

成長は、感謝と節度の精神で  
コロナ禍を契機に生き方・働き方が変わる!  
コロナ危機下でのGMOインターネット事業  
インターネット事業  
グループ代表 熊谷正寿の  
小林幹 柏田博文



◎インタビュー  
元防衛大臣  
拓殖大学総長  
森本 敏  
大和ハウス工業社長  
芳井 敬一  
三井化学社長  
橋本 修

## アスベストの除去 キラリと光る技術で社会貢献



村山 哲生

むらやま・てつお  
[トッププランニング JA  
PAN代表取締役]

常に弱い立場に立ちながら、大企業の経営資源を引き出すお手伝いをしてたい——。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、全国各地の建設現場の工事が一時的に停止するなど、コロナ禍は建設現場にも大きな影響を与えていました。そんな中でも、ある建設現場では「人々の命を守る」という取り組みをしつかり進めていかなければならぬものがあります。それが建物外壁の塗装に含まれる「アスベスト」の除去です。

織維状の天然鉱物で、頑丈かつ耐熱性に優れ、低価格という特徴を持つたアスベストは幅広く普及しました。防火・防音・断熱用に住宅やビルの屋根や天井、床などに用いられていましたのですが、解体・改修工事の際に飛散したアスベストを吸うと、06年に使用が禁止されたのがんを引き起こすとされ、2006年に使用が禁止されたのは、皆さんもご存知でしょう。

しかし、このアスベストが今でも手付かずのままに残されている現実があります。アスベストを含む民間の建物は全国で280万棟を超えており、これらの建物の解体・改修工事は必須です。実際に昨年、環境省はアスベストの有無を事前に調査し、都道府県に報告することを工事の実施者側に義務付けることを決めました。

アスベストが使用されている建物の中には小学校などもあります。未来の日本を背負う子供たちにもアスベストの脅威が迫っているのです。アスベストの厄介なところは、作業員の手作業で剥がさなければ完全に除去することができないという点です。ですから、作業員の方々にも大きなリスクがあるのです。

また、建物を保有する事業者にとっても、アスベストの有無によって保有する資産の価値が左右され、事業者自身も世間から厳しい目にさらされることになります。高度成長期に林立した中小のペンシルビルの耐用年数は50～60年。その大半にアスベストが使用されています。

費用もかかる上に、人命のリスクもあるアスベストの除去は誰かがやらなければならない重要な仕事なのです。特に内外壁に含まれるアスベストが問題であり、当社は法規制に先立ち大手エンジニアリング会社の協力を得て超高压のバキュームを活用した技術開発を行いました。

当社が開発した「バキュームウォータージェット工法」は超高压の水圧を利用して、専用器具にてアスベスト含有塗膜剥離を行うことで、アスベスト含有塗膜と下地モルタルの完全除去が可能になりました。作業員の安全も確保することができます。

当社が開発した「バキュームウォータージェット工法」は超高压の水圧を利用して、専用器具にてアスベスト含有塗膜剥離を行うことで、アスベスト含有塗膜と下地モルタルの完全除去が可能になりました。作業員の安全も確保することができます。

アスベストは全国民の共通した大きな課題です。その課題を解決するためには、冒頭のように考え方が必要ではないでしょうか。会社の規模は小さくても、その思想を胸に秘め、アスベス